

## 北海道開発技術研究発表会 新技術セッション(民間企業が開発した新技術の発表)発表技術効果一覧表

番号	技術名	NETIS登録番号	技術概要	効果						企業名
				経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境	
1	不織布カバー防食工法「NEac工法」	申請作業中	不織布と高弾性エポキシ樹脂(トップコート)を使った防食工法。 不織布に樹脂を含まずする方法により構造物に高耐久の防食性と耐薬品性を付与し、長期に渡り構造物への塩分や水分の侵入と紫外線劣化を防ぎ長寿命化を図る技術。	低下	向上	向上	向上	向上	向上	小泉製麻株式会社
2	既設管きよを更正する工法「SWライナー工法」	KT-150034-A	老朽化した管きよを非開削かつ流水下で更生する管きよ更生工法(製管工法)。 掘削や埋戻し、仮排水等の必要性がなくなり、コスト縮減や工期短縮を図る技術。	向上	向上	向上	向上	向上	向上	SWライナー工法協会
3	ICT技術を使った熟練技術者の技術継承	申請作業中	ICT(GIS)を使って道路維持管理における熟練技術者の技術継承を支援するシステム。 タブレット端末によりKP点の情報だけでなく同じ位置の共通認識が可能となり、維持管理業務の効率化を図る技術。	向上の可能性有	向上	向上	向上	向上	向上	三津橋建設株式会社
4	軟弱地盤改良工(スラリー攪拌工法)「Gコロム工法」	QS-100022-VE	スラリー攪拌工の施工を小型機で施工可能とした技術。 小型軽量機で地盤改良が可能となるため、組立解体が不要となり、コスト縮減・工期短縮・環境負荷軽減を図る技術。	向上	向上	同等	向上	向上	向上	Gコロム研究会
5	遠隔操縦式水陸両用建機によるブロック設置工法	登録なし	陸上機械では仮設を必要とする浅海域を作業領域とする無線遠隔操縦式水陸両用機械を用いて効率化する技術(水陸両用バックホウ・水陸両用ブルドーザ連携作業)。	向上	同等	同等	向上	向上	向上	青木あすなる建設株式会社
6	傾斜監視クラウドシステム(OKIPPA104)	申請作業中	維持管理が必要な切盛土法面やインフラ施設の変状を把握するシステム。 基地局の設置・保守が不要で点検・監視箇所にセンサーBox単体を設置することで、目視点検結果を定量的に把握することが可能となりコスト縮減・省力化を図る技術。	向上	向上	同等	向上	向上	向上	西松建設株式会社
7	付着強化型排水柵	HK-180018-A	床版コンクリートと排水柵との密着性を改善して、排水柵周囲からの漏水を抑制するFRP製排水柵。 排水柵をFRP製とすることで重量を軽量化し、SBR系速硬化性ポリマーセメントを使用することで付着強度向上により施工性・安全性・漏水防止を図る技術。	向上	同等	向上	向上	向上	向上	日本車輛製造株式会社
8	温水ホースを用いた省エネ型コンクリート給熱養生工法	申請作業中	ジェットヒータが不要となり燃料、燃焼ガス削減が可能となったクリーンな防寒養生工法。 上屋設置期間が短縮し、簡易な囲いで給熱養生が可能となり、コストを縮減する技術。	向上	向上	向上	向上	向上	向上	エクセン株式会社
9	地山補強土「PAN WALL工法」	CB-170019-A	プレキャストコンクリートパネルと補強材を組み合わせた地山補強土工法。 表面工のプレキャスト化により工期が短縮短縮し、現場条件に応じて逆巻き・順巻き施工を選択できる安全性・施工性の向上を図る技術。	向上	向上	同等	向上	向上	向上	PAN WALL工法協会
10	簡易給水方式による脱塩、再アルカリ化および電着工法	申請作業中	中性化や塩害により劣化したコンクリートを健全な状態に回復できる「簡易給水方式」による電気化学的補修工法。 コンクリート表面に仮設陽極と電解質溶液を設け、内部鉄筋を陰極として通電し、アルカリ溶液の浸透及び塩化物イオンの排出によりコンクリート表面を補修する技術。	向上	低下	向上	向上	向上	向上	株式会社安藤・間
11	冬期に発生するポットホールを抑制する改質アスファルトレキファルトスーパー	QS-150026-A	ポットホールを抑制するためにアスファルトと骨材の剥離抵抗性を高めて、施工可能温度を下限方向に広げた改質アスファルト。 アスファルト混合物中の水の浸入による剥離を抑制し、施工可能温度を広げることで低温期の条件下でも所定の締固め度を確保した長寿命化を図る技術。	低下	同等	同等	同等	向上	同等	ニチレキ株式会社